

令和七年度

龍谷大学付属

平安中学校入学試験問題

受験番号

# 国語

## 解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があつたら、解答用紙をおもてに向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。(問題を持ち帰ることができません)

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 「将来」のことを考えるということは、〇〇になりたいという「夢」のことだと思おう人は多いでしょう。

たとえば、自分は人より少しかわいしいし、少し歌も上手いからアイドルになりたい、なれるんじゃないか……とか。

もちろん可能性はゼロではないけれど、アイドルになるような人は、小さい時から人を集めて歌っていたり、かわいくて注目されたりしています。気がついた時にはとくに道ができていると思うんです。

夢を持つということは素敵なことですが、何もないところから道を作るのは大変なことです。そういう意味で、自分の身の回りや興味の※範疇にないものを将来像として願っていても、あまり現実的ではないように思います。それに、今まで自分が好きだったことやものを全部否定することにもなってしまうんです。私は基本的に、それはあまりしてほしくないと考えています。

これまで自分が積み上げてきたものが、今の自分を作っているんで、それを生かすということにもっと目を向けてほしいです。なぜ自分はここに生まれたのかとか、どうして自分はこれが好きなのかとか、自分の身の回りから考えていくと、将来というのは、そんなにうすぼんやりしたものではなくなってくるように思います。

□ I、身近なところに将来の職業があるという意味で、親の仕事は継ぎやすいということはあると思います。もともとあるものに関して、人は意外とありがたみを感じないものですが、大変さも含めて雰囲気を知っていることは強みです。

自分の好きなことを見つけたら、知ったりすることは、とても大切なことです。どこまで好みを貫くかも自分で決めていくことだから大事です。

将来やりたいことを探すためには時間が必要です。自分の向き不向きを見極めていくのはいくらか早くてもいいんです。夢と自分との距離が開き過ぎていると難しいと思うし、それでも切り拓ける人はいるけど大変です。

何事も一日にしてならず、ですから。少なくとも今まで積み上げてきたものがどんな人にもあつて、十歳には十歳の、十五歳には十五歳の積み重ねがあるでしょう。それを親にお願いしなくても見てもらってほしいし、自分でも見つけてほしいです。それだけでも相当なことが分かります。もうその人の得意なこととは十歳でも明らかに出現していますから。

そうやって、小学校、中学校、高校と将来のことが、だんだんとリアルになっていくのが理想的な形なのかなと思います。本当に自分にぴったりの仕事というの、探していけば必ずみつかります。

② ある程度の年齢になると人間は得意なことに逃げるようになります。そうすると得意なことがだめになっていきます。上手いかなんことを得意なことで解消するというサイクルに陥ってしまうと、得意なことが得意でなくなっていくし、楽しくなくなってしまうんです。

例えば、介護の仕事が得意で、自分は高齢者のお世話については群を抜いていて、周りの人望も厚いという人がいるとします。その人に「私生活はどうなの？」と聞いた時に、仕事が充実していて忙しいし、私にはおじいさんおばあさんがいるからいいのと。結局、何かひとつのことに特化した人というのは、応用がきかなくなってしまうんです。極端なことを言うと、おじいさんおばあさんとは楽しく話せるけれど、同世代の異性とは口がきけないとか。

自分の得意な世界しか知らないと、悩み事があっても、他の角度から見ることができなくなってしまう。そうするとだんだん、得意なことが先細りになっていって、せつかくの才能がものすごくもったいないなど、最近、私はいろんな人を見ていて思うんです。

【1】  
今の世の中はこうでなければダメとか、強くいったもの勝ちとか、その人が持っている自信を奪っていくことがいっぱいあります。だから、得意なことを強化して、自信を持てるようにという、その努力自体は間違っていない。

【2】  
世の中があまりにも※世知辛くて、外に行くと自信を失うから、自分の得意な枠の中で安心していたいという思いが一層強くなっていると思うんです。それは誰にでもある心理だから分かるけど、そういうふうにごんごん逃げて、依存するようになると、どんどん弱っていきます。自分を甘やかすことにもなってしまう。そうやって人生の□\*が、少なくなっていくのはつまらないことだと思います。

【3】  
なるべく小さいうち、若いうちに万遍なくいろんなことをやっておいて、苦手なこともやってみて人にとことん笑われるとか、好きだけど向いてないとか、そういうことをいっぱい経験しておくことも大切だと思います。

【4】  
私は幼いころから作家になると決めていたので、作家になる前の時期、みんなが当たり前のようになっていること——学校に行ったり、勉強したりすること——に何の意味があるのか分からなかったんです。

II、若くして作家デビューした時に、人生経験が圧倒的に少ないと感じました。就職もしていなかったし。何とかしなければと、いろんな人に会いに行ったり、旅に出たりしました。人に会うには、服装や振る舞い、礼儀正しさなど気をつけないといけないことがたくさんあって、そういうことも勉強になりました。お金は少しかかりましたけどね。でも、人生の幅を広げるためだったので後悔はしていません。

私は小説を書くのが好きだし、書いていたらいくらでも時間が過ぎていってしまう。だから、あの時、家で書き続けるばかりだったら、私の小説はどんどん先細りになっていったと思います。あのお金を全部貯金していたら、生活には困らなかったかもしれないけれど、小説には困ったでしょうね。新しい場所に行くとか、新しい人に会うというのはすごいことで、自分を強くしたし、あの体験があったから、③いろいろな層の人たちを書くことができるようになったと思います。

世界は広くて様々な仕事があり、いろんな考えの人がいます。一人の人間が直接体験できることは限られているので、他の人と会って、その人がやっている仕事を見て、想像していたのは違うな、と思う瞬間をたくさん持つのがいいことだと思います。そういうのを見に行ってみるだけでも面白いし、世界が広がって、※謙虚になれます。

④自立というのは、お金のことでない気がします。お金をちゃんと稼いでいて、親と別に暮らしていても、全く親離れしていない人はたくさんいます。状況が自立していても、それを自立とは言わないんじゃないでしょうか。

私が考える自立は、親や兄弟姉妹に、何も言わないで問題を解決したことがあるかどうかだと思います。親の代わりに友達に相談してもいいけれど、そのことを親にも兄弟姉妹にも言わ

ない。そういうことがいくつかできた時が自立なんです。

それはそんなに若いうちにできなくてもいいんです。

私も、親にいちいち言わなくても大丈夫だなど思ったあたりで自立した感じがします。今振り返ってみると四十歳くらいになってからでした。自分だけで立って歩いて行こうという意志があることも大事だと思います。でも一生自立しなくてもいい人もいるので、そこは※強いて頑張れよとは思いません。

Ⅲ、自分にとっては自立できたことはよかったなと思っています。豊かな感じがするんです。自分の世界を広げて解決していく感じが。最終的には親の顔を見るだけでいいやっという。そういうところで初めて自立して大人になったというのかもしれない。

最後に、仕事とは別に、楽しいことや生きがいというのも大切で、そういうものも必要です。仕事だけやっていたら、人生が楽しくなくなってしまうから。本当に先細っていつちやうと思うんです。そういう全てがつながって、いろいろなこと豊かになっていくというのがいちばん良いイメージです。

( 吉本ばなな 『おとなになるってどんなこと?』 )

※(文中のことばの意味)

範疇 : 範囲。

世知辛くて : 厳しく暮らしにくくて。

謙虚 : ひかえめなこと。

強いて : 無理やりに。

問1 最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ Ⅲ にあてはまることばの組み合わせとして、

- |   |        |        |       |
|---|--------|--------|-------|
| ア | Ⅰ たとえば | Ⅱ でも   | Ⅲ ただ  |
| イ | Ⅰ また   | Ⅱ もちろん | Ⅲ だから |
| ウ | Ⅰ たしかに | Ⅱ つまり  | Ⅲ 一方で |
| エ | Ⅰ そして  | Ⅱ しかし  | Ⅲ なお  |

問2 線①『将来』のことを考える」とはどうするか

とですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分にとって可能性がゼロではないことを見つけ、大変ではあるが何もないところに道を作れるように、夢について考えること。

イ 今の自分を作っている自分が積み上げてきたものを生かし、自分の好みを貫けるように、他人に頼らず自分で自分について考えること。

ウ 自分の近くにもともとあるものがありがたみを感じ、本当に自分にぴったりの仕事を見つけられるように、何にやりたいかを考えること。

エ 自分の好きなことを見つけ、それが自分に向いているか向いていないかを見極められるように、自分の身の回りから考えること。

問3

——線②「ある程度の年齢になると人間は得意なことに逃げるようになるんです。そうすると得意なことがだめになっていきます」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「得意なことに逃げる」例としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国語が得意で、さらに点数をとれるようになるために、国語だけをたくさん勉強する。
- イ 音楽が得意で、さらに上手に演奏できるようにするために、自分が音楽に向いていると信じる。
- ウ 水泳が得意で、さらに速く泳げるようになるために、他のスポーツにも取り組んでみる。
- エ 書道が得意で、さらに上手に字を書けるようになるために、自分の実力に自信を持って安心する。

(2)

「そうすると得意なことがだめになっていきます」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の得意なことに依存して、物事を他の角度から見ることができなくなると、かえってその得意なことが弱ってしまうから。
- イ 自分の得意なことが先細りすることにより、自分を甘やかす万遍なく様々なことをやると、応用がきかなくなってしまうから。
- ウ 自分の得意な世界しか知らないと、強くなったもの勝ちと考えるようになり、得意かどうかを気にしなくなってしまうから。
- エ 自分の得意な枠の中で安心し、その枠の中に逃げればかまううちに、好きだけど向いていないことに気づいてしまうから。

問4

＊          にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア コミュニケーション
- イ バリエーション
- ウ コラボレーション
- エ シミュレーション

問5 文中から、次の段落がぬけています。どこにあてはめるのがふさわしいですか。【1】〜【4】から一つ選び、数字で答えなさい。

そうすると大人になってから、本業のほうも上手くいくようになるでしょう。

問6 線③「いろいろな層の人たちを書くことができないようになった」とありますが、筆者がそのようになったのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 学校に行くことなどの意味は分からなかったが、幼いころから作家になると決めていたから。

イ 人生経験が圧倒的に少ないという実感から、様々な人に会いに行ったり、旅に出たりしたから。

ウ 人生の幅を広げるために、服装や振る舞い、礼儀正しさばかりに気を遣ったから。

エ 生活に困るくらいお金をかけてでも、小説を書き続けることを大切にしていたから。

問7 線④「自立」に対する筆者の考えとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自立とは、衣食住を親に頼らず、自分だけで立って歩いている状況を作ることである。

イ 自立とは、他人に一切相談することなく問題を解決できるようになることで、できないままでもいい人もいる。

ウ 自立とは、親に何も言わず問題を解決できるようにすることだが、若いうちはできなくてもよい。

エ 自立とは、四十歳くらいになる前には、自分の世界を広げて問題を解決できるようになることである。

問8 次のア〜オについて、この文章の内容を説明したものとして、ふさわしいものは「1」、ふさわしくないものは「2」で答えなさい。

ア 早くから将来について考え、小さいうちに将来のことをはっきりさせてしまおうのが望ましい。

イ 得意なことに自信を持つために努力するのは間違いではないが、苦手なことをやってみるのも大切である。

ウ 一人の人間が直接体験できることは限られており、人生経験を積むためにはそれだけでは足りない。

エ 筆者自身は、親離れをして自立できたことで、豊かになったと感じている。

オ 豊かに仕事をするのが最も重要で、そのために楽しいことや生きがいなど様々な全てをつなげるのが良い。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校一年生の杏美と香奈枝は、家が近くて母親どうしが顔見知りだったことから、「仲良し二人組」とされていた。保育園のころの杏美は、他の子たちの中で一番背が高く、何をやってもいちばん上手で、おとなにほめられるたびに、自分は特別なんだと思っていた。一方、香奈枝は四歳になっても他の子より幼く、杏美の後ろをついて歩くばかりだった。

杏美は、保育園のころ、母の多美子が香奈枝の写真を見ているときに、「この子は将来、美人になるわ。あなたは不器量だから、しっかりと勉強して、みんなの役に立つ仕事に就かないとね」と言ったことを忘れられないでいる。

秋になり、学芸会で『白雪姫』を上演すると発表された。

配役が発表されると、

「あずちゃん、何の役やる？」

香奈枝に訊かれた。杏美は、ほんの少しだけ白雪姫役に惹かれていたけれど、なぜか、

「ナレーター」

と言った。

「かなちゃんは？」

「あたし白雪姫に立候補する」

きっぱり言う香奈枝の目はみずみずしい野心に満ちていた。すでに杏美と香奈枝の力関係は変わりつつあった。香奈枝はクラスで一番背が低く、発想も幼く、絵や字もへたくそで、計算も遅い。何もかも杏美に負けているのに、一向に気にしてい

ないようだ。気が強くわがままで、そのわがまを通す力を持ち始めていた。

① 白雪姫なんて、セリフ全然ないじゃん」

香奈枝のまっすぐな物言いが眩しすぎて、杏美はそんなふうと言った。白雪姫役は五人。十の台詞を、五人がふたつずつ担当するのだ。ナレーターには三つ台詞がある。それ以上、台詞のある役はない。皆が平等に目立てるように、先生たちが台本を作ったのだろう。動物だの妖精だの、いろんなのが出てきて、一つ、二つ、皆が喋る。

「だって、ドレス着れるの、白雪姫だけでしょ。それに」

と、香奈枝が思いがけないことを言った。

「あずちゃんも一緒に白雪姫やれば、一緒に練習できるよ」

「え……？」

杏美は困った顔を作った。

「やろうよ、やろうよ」

「でも……どうしようかな」

② 甘ったるい食べ物を不意打ちで舌にのせられたような気がした。

白雪姫役に手を挙げる時、どきどきした。立候補者はぴったり五名。全員仲良く白雪姫になることができて、安堵の息がもれた。

その日の夕方、一緒に通っていた公文教室にお迎えにきた多美子と香奈枝ママに、③二人は口々に白雪姫役をやることを報告した。香奈枝ママは「やったね」と言い、香奈枝の手のひらと自分の手のひらをパチンと合わせた。一方、多美子は、

「やあだ、五人の中で杏美だけがノッポじゃないの、入れ替わった時に変な感じになっちゃうじゃない」

とぶつぶつ言った。香奈枝ママは、そんな多美子に苦笑いをしながら、

「あずちゃんと一緒に白雪姫できるなんて、カナ、良かったね。おんなじドレスのお衣装を着て、写真をいっぱい撮りたいね」と杏美に声をかけた。

「白雪姫のドレス、親が作るのかしらね……香奈枝ちゃんには似合うでしょうけど、うちはどうかしら……」

まだぶつぶつ言っている多美子だったが、いつもよりはその目が優しく細められている気がした。

——おんなじドレスのお衣装を着て、写真をいっぱい撮りたいね。

香奈枝ママの言葉が、ポップコーンみたいに軽やかに、耳元で弾け続けていた。

その日、公文教室からマンションの近くの別れ道まで、杏美は香奈枝とつないだ手をぶんぶん振って、勇ましく歩いた。

しかし翌日の朝の会で先生が、白雪姫の役を決め直すと言ったのだった。なんでも昨日休んでいた飯田麻耶が、親を通じて電話で白雪姫役に立候補したいと伝えたらしい。

皆の前で、六人でじゃんけんをして、香奈枝が負けた。

大泣きするかと思った香奈枝は無表情で引き下がった。先生が何か言葉をかけていたけれど、香奈枝は黙っていた。

休み時間に杏美が香奈枝に話しかけるとふいっと横を向かれた。香奈枝は、杏美だけではなく、他の誰ともしゃべらなかつた。杏美は、白雪姫役を奪った飯田麻耶が平気な顔で授業を受けているのを、信じられないような思いで見ている。香奈枝の不機嫌は、何かじわじわとした首輪になって、自分に巻きついてくるようだった。

だから、給食の準備時間に、

「あずちゃん……」

と香奈枝に声をかけられたとき、杏美はようやく④この首輪

を外せると思った。

「あずちゃんは本当は白雪姫、演りたくなかったんだよね？」  
⑤意を決した顔の香奈枝の目はきれいだった。

「あずちゃん、本当は、ナレーター演りたかったんでしょ。だつたら……」

「わたし、やめてもいいよ」  
皆まで言わず、杏美は言った。

「え、本当？」  
香奈枝の顔がぱあつと光る。

「先生に言いに行こう」  
杏美は香奈枝の手を握った。香奈枝の手を、自分から握るのは久しぶりだった。香奈枝が、

「よかった」

と言った。うん、よかった。私はもともと白雪姫なんて演りたくなかったんだから。台詞が多いナレーターを演りたかったんだから。

それなのに、先生に許可を得て、正式に白雪姫から降りた時、取り返しのつかないことをしてしまったような気がした。

ちゃんと頼まれていないし、ちゃんとお礼も言われていない。急にそんな考えが湧いて、香奈枝を責める気持ちがあつくと湧き上がった。ちゃんと頼ませないように、ありがとうを言わせないように、⑤そうしたのは自分だったのに、どういうわけか、酷く不当なことをされた気がした。

「あずちゃんが、うちのカナに、白雪姫役を譲ってくれたそう  
で。本当にありがとうございます。あずちゃんは、優しい子ね」  
数日後の公文の帰り道、香奈枝ママが多美子に礼を言うのを聞いていた。

そのことを知らなかった多美子は、一瞬黙ってから、ぱかつと箱を開くような笑顔になって、

「いいのいいの。うちのなんて、白雪姫って柄がらじゃないし、香奈枝ちゃんかが演ったほうがずっと㉔様になるわよ」

と言った。

それなのに、家に帰ってから、

「杏美が白雪姫役を降りたこと、知らなかったよ。よく我慢したね」

と、杏美に言った。

我慢？

ノッポの杏美には似合わないって、お母さん、何度も言っていたくせに。

「我慢なんかしてないよ！ わたし、白雪姫なんて、本当はやりたくなかったんだから」

多美子は本当は自分に白雪姫をやってもらいたかったのだ。

そう思ったら、㉕「我慢」のひと言は、鑢かみたいに耳たぶを擦った。

「五人でやる役なんて、ばっかみたい」

いくらひらひらしたドレスを着たところで、I白雪姫より、IIナレーターのほうが、賢かしこい選択せんたくなんだ。たとえナレーターは舞台ぶたいには立たず、その下でマイクを使って喋る役だったとしても。

（朝比奈あすか 『君たちは今が世界』）

問1

~~~~~線㉔㉕のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

㉔ 安堵あんどの息がもれた

ア 思いがけないことがおき、喜ぶ様子  
イ 予想以上の展開に、とまどう様子  
ウ 物ごとがうまくいき、安心した様子  
エ 思いどおりに進み、興奮した様子

㉕ 意を決した

ア 開ひらきなおった  
イ 覚悟かくごをきめた  
ウ 緊張きんちやうした  
エ 期待きたいした

㉖ 様さまになる

ア 白雪姫らしくなる  
イ みんなに喜ばれる  
ウ 学芸会が成功する  
エ 上手な演技ができる

問2

——線①「白雪姫なんて、セリフ全然ないじゃん」と言った杏美の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 周りの反応を気にすることなく、白雪姫をやりたいと素直に言える香奈枝がうらやましい。

イ セリフが少ない白雪姫役には全く興味がなく、それをやりたいと言う香奈枝が信じられない。

ウ 背も低く、発想も幼く、勉強もできないのに、白雪姫役なんて香奈枝にできるはずがない。

エ 主役という役割に目がいつて、台詞が少ないことにも気がつかない香奈枝はやっぱ若い。

問3

——線②「甘ったるい食べ物を不意打ちで舌にのせられたような気がした」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「甘ったるい食べ物」とは何をたとえたものですか。文中から四字のことばをぬき出しなさい。

(2) このときの杏美の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつもは嫌気がさす香奈枝のわがままに、感謝している。

イ 香奈枝からの強引な誘いを断ることができず、困っている。

ウ 香奈枝からの心ひかれる誘いに戸惑いつつも、喜んでいる。

エ 香奈枝から苦手なことを押しつけられ、不安を感じている。

問4

——線③「二人は口々に白雪姫役をやることを報告した」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 白雪姫役をすることを楽しみに思う杏美の気持ちがある、たとえの表現を含んだ一文を文中からぬき出し、はじめの六字で答えなさい。

(2) この時の多美子の気持ちを説明した次の文の□にあてはまるように、文中の言葉を使って十五字以内で書きなさい。

自分の娘が主役をすることになったことが気恥ずかしく、娘の背の高さを気にしたり、ドレスが似合うかを気にしてぶつぶつ言うが、□からうれしさが感じられる。

問5

——線④「この首輪を外せる」とありますが、杏美は「首輪を外」すために何をしようと思っっていますか。「香奈枝」という言葉を使って、十五字以内で書きなさい。

問 6 ——— 線⑤ 「そうしたのは自分だったのに、どうい

うわけか、酷く不当なことをされた気がした」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 香奈枝の機嫌をとろうと思っただったが、思っていたほど喜んでくれなかったから。

イ 香奈枝に気をつかわせなかったためだったことが、本当は白雪姫役をやりたかったから。

ウ これ以上香奈枝にふりまわされなかったことだったが、友だちとしての優しさがなかったから。

エ わがままな香奈枝にあきれてきたことだったが、ナレーター役をする自信がなくなってきたから。

問 7

——— 線⑥ 『我慢』のひと言は、鑢やすりみたいに耳たぶを擦こすった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 香奈枝と自分が望んで決めたことを、我慢していると母が誤解したのが悔しいから。

イ 本当は白雪姫役がやりたかったことを、母に気づかれていたのが恥ずかしいから。

ウ 母の本心に気づいたことで、白雪姫役をゆずってしまったことへの後悔が強まったから。

エ 香奈枝に役をゆずったことで、白雪姫役をやりたい気持ちいだんだん生まれてきたから。

問 8

I II にあてはまる言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア I 練習が多い II しゃべるだけの

イ I 多美子が喜ぶ II 香奈枝が喜ぶ

ウ I 派手で目立つ II 地味で目立たない

エ I 台詞ふたつの II みつつ喋れる

問 9

登場人物を説明したものととしてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 杏美は役決めるときに白雪姫役をしないと自分から言えなかったり、一緒にやろうと香奈枝に誘われたときにすぐに答えなかったりと、自分の本心を人に見せない。

イ 香奈枝は自分より背が高くてなんでもできる杏美がうらやましくて、その分杏美には思ったことをはっきり伝えた

り、感情を表情や行動に表したりしている。

ウ 香奈枝ママは二人が白雪姫役をすることを一緒に喜んで

り、役をゆずった杏美をほめたりと、自分の娘にも杏美にも分け隔へだてなく接している。

エ 多美子は杏美が白雪姫役に決まったことがうれしいのに、衣装や杏美の身長を気にすることをぶつぶつと言うなど、気持ちと行動がずれてしまっている。

三 次の①～⑩のことばについて、書き方が正しいものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① ア ちじむ                   イ ちぢむ
- ② ア こうろぎ                イ こおろぎ
- ③ ア てづくり                イ てづくり
- ④ ア おねいさん            イ おねえさん
- ⑤ ア こういうわけ          イ こうゆうわけ
- ⑥ ア おこずかい              イ おこづかい
- ⑦ ア ひとつずつ              イ ひとつづつ
- ⑧ ア とうげ                    イ とおげ
- ⑨ ア じめん                    イ ぢめん
- ⑩ ア こんにちは              イ こんにちわ

四 次の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① けがをしたので応急シヨチをする。
- ② 方位ジシンに従って進む。
- ③ 正義のミカタにあこがれる。
- ④ シュウカン誌にスクープされる。
- ⑤ 石油などのシゲンには限りがある。
- ⑥ 深刻な事態におちいる。
- ⑦ 外見よりも内面を重視する。
- ⑧ 全国大会で実力を發揮する。
- ⑨ 洗練された技術に驚く。おどろ
- ⑩ 父の営む旅館を手伝う。

これで問題は終わりです。